

空は青々

校長室だより 令和7年1月8日 NO. 31 校長 高橋 理香

2025年のスタート! 子どもたちの元気な姿に安心!

2025年最初の日、元気に登校した子どもたちの姿を見て、本当に安心しました。体育館の気温が低かったため、全校集会は放送による集会に変更しました。子どもたちは、教室で静かに話を聞いており、どの学級も順調に2025年のスタートを切ることができたと感じております。

2学期後半も、「チーム岩中」として、「地域を愛し、地域に愛される学校」を目指し、教職員共々ががんばっていく所存です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



全校集会では、次のことを話しました。 **【年末に地域の方にことばのギフトカードを渡す様子↑】**

今日は放送によるあいさつになりましたが、新年はじめのあいさつということで、新たな気持ちで、真剣に話を聞いてほしいと思います。今年もよろしくお願いいたします。

さて、2025年が始まった今日は、みなさんにとって大事な一日です。みなさんの真っ白な2025年の予定表に、どんな予定が入っていくのか、どんな記録が残されていくのか、想像するとちょっとワクワクします。人は何かをするときに、予定を立てたり、計画を作ったりします。それは、自分で自分を管理するため、そして、よりよい未来を想像するために必要だからです。また、計画を作ることで見えない未来を少しだけ見ることができるからです。みなさんの未来は、そうやって、自分自身が創り上げていくのです。

今日は、新年のあいさつなので、ちょっと夢のある話をしたいと思います。

今から約150年前に『人間が想像できることは、人間が必ず実現できる』という言葉を残した人がいます。フランスの作家で、ディズニー映画にもなった『海底二万マイル』という潜水艦を舞台にした物語を書いた、ジュール・ヴェルヌという人です。150年前の当時、潜水艦はもちろん存在していません。彼の想像力だけで作った、架空の乗り物でした。それが今では、潜水艦は当たり前のように海底を動いています。同じように、50年前にはなかった携帯電話

やスマートフォンが作られ、今ではどこにいても、電話はもちろん、SNSでの通信やAIという人工知能が、いろいろなことを教えてくれる時代になりました。『人間が想像できるものは、人間が必ず実現できる』。この言葉は、私たちに勇気を与え、未来への希望を膨らませてくれる言葉です。もしかしたら、100年先の未来は、車で自由に空を飛べたり、「どこでもドア」で好きなところに行けたりするような時代になっているのかもしれませんが。こう考えると、自分の未来だって、自分の想像次第で大きく変わってくると思いませんか。だからこそ、みなさんには「想像力」を鍛えてほしいと思うのです。できるだけ、楽しい未来を想像し、自分の未来に向かって前進してほしいと思います。

今年1年、みなさんにどんなすてきな未来が待っているのか、そして、みなさんの予定表にどんな1ページが刻まれていくのか、私はとても楽しみにしています。

こうやって未来のことを考えたとき、私たちの後ろには、必ず歩んできた足跡があります。今年、岩出山中学校は、統合して30年という節目の年を迎えます。節目と言え、日本全体を考えると、阪神淡路大震災から30年、戦争が終わって80年が経ちました。そんな大きな節目を迎える年に、みなさんとうして、岩出山中学校で一緒に生活できることに「感謝」をしています。

今の岩中があるのは、ここにいるみなさんはもちろん、これまで岩中を創り上げてきた先輩方、そして地域の方々のおかげです。たくさんのお会いに感謝しながら、3月にはここにいる全員が「この学級、この学年、この学校でよかった」と言える集団になるために、これからも一緒にがんばっていきましょう。

最後に、今年度は残り3ヶ月、たった12週間です。時間は意識しないとあっという間に過ぎてしまいます。岩中生一人ひとりが「夢」を追いかけ、「夢」をかなえるために、自分の未来に向かって、一步一步着実に、自分の力で前進していくことを願って、あいさつとします。

ありがとうございます!

～ソネタ生花店様より寄贈～

岩出山地域のソネタ生花店様より、年明けにふさわしいすてきな花を寄贈していただきました。さっそく玄関に飾っています。玄関が華やかな雰囲気になっております。いつも子どもたちのために、ありがとうございます。

